

久しぶりに児童文学の同人誌「小さい旗」に作品を載せてもらった。五十年以上の歴史を持ち、国語の教科書には各学年必ず作品があり、全国の子どもたちにはおなじみの水上かずよをはじめ、多くの作家を輩出してきた同人誌である。

かつて私も、この同人誌に載せてもらいたくて、せっせと書いたものだ。ボツを繰り返しながら同人たち

の合評に少しずつ鍛えられ、何とか読めるものが書けるようになった。

ある日、「小さい旗に載

ウキツリボク



庭先のランプ

出版社から電話がかかったときの胸の高鳴りは、今も忘れられない。まさに初心のとどろきであった。

私はいま初心に戻って、ライフワークに取り組みうと思っている。胸底に響くあのとどろきをエネルギーとして神経を研ぎ直し、アンテナを張り巡らし、さまざまな事象を取り込む意欲をかきたてねばならない。

七十歳の初心はきつい。

つつている『父さんと母さんの火』いいですねえ。うちから出させてください」と、

けれども長い年月温めてきたライフワークに取り組みのなもの、なりふり構わず初心に戻れば、何とかなるだろう。